

JRひがし労仙台 業務部情報

2019年12月29日

NO. 039

JR東労働組合
仙台地本業務部
発行責任者：横山裕介

中編成ワンマンの実施について提案される！②

議論内容

(営業関係)案内や、運賃遁脱の対策、防犯カメラや券売機、無人駅での清算は。

会社：乗務としてお客さま案内という形では一定期間乗務するというかたちになる。期間は未定

会社：防犯カメラは今回運行するエリアについては設置する予定という話しは聞いている。仙台支社管内についてはすでに設置は完了している。

会社：強固な集札箱というのは、持っていかれて不正に払い戻し等されないようにという意味で設置しているので、ただ乗車についてはこれまで通り啓蒙活動としては乗車前に必ず切符を購入してくださいという案内は継続してやっていく。基本的には通勤・通学のお客さまが多くいるので、定期券を購入していただくようにというのは当然のことだし、事前に購入という所でもそこはお客さまのマナーというかモラルの問題なので、引き続き会社としてもお客さまに対しては働きかけを実施していく。

会社：券売機は白坂が付いていない。他は大宮支社になるので諸元には書いてない。

会社：運賃表はあるので降車のタイミングで、集札箱に入れてもらう。おつりが発生する場合は後日申告していただくという形になる。

(車両・設備関係)車両や駅設備、安全対策について

会社：改造予定は531系3000番台5両7編成。赤旗は豊原にはある。他は利用実態を見て。

会社：列車非常停止スイッチについて整備する場合には、乗降人員とかホーム形状とか判断した上で整備計画を進めているところがあって、対象になってない可能性がある。

会社：アクセス鉄道では、車載カメラが壊れた時は駅社員の方に監視をしてもらいながらドア扱いをする。

会社：車両のカメラは、実際には1両以上映る範囲である。1車に4扉付いているので、そこは確認できる

会社：遠くに行けば行くほど画角は広がっていく。映る範囲としては、黄色い線の外側まで映っているはず。

会社：停目の移設とか、一部の駅だが。車両のモニターは画面割りとしては、一枚が映る形ではなくて、縦長で長い距離を見れるような風になっている。画面は3分割の画面が2つ並ぶ。ある程度広く見れる画角になっている。

会社：異常時の取り扱いについてはまだ本社等の打ち合わせや会議を続けている。

会社：設備として、車内の確認をするカメラではなくて、防犯カメラとして改造はする予定。車内を写すカメラはない。ホーム側のミラーも撤去する。乗降はカメラだけで確認するようになる。

(教育・その他)ハンドル訓練等について。次は仙石線とか今後、他線区に入る可能性は。

会社：ハンドル訓練は1月21日からの予定。その期間で駄目な場合は添乗等で対応する。まだ検討中。いきなり乗務させることはない。

会社：実際運用してみた中でという所もあろうかと思うし、今の段階で今後の明確な話はない。

異常時対応など、まだ明確になっていない事も多い。今後の申し入れや団体交渉の中で明らかにしていきます。

※議論詳細はひがし労役員にお尋ねください